西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
2 月10日
発行

第 166 回　「続・格言講座」

～株式市場は上昇へ～

初めに

今年に入って株式市場は上にも下にも行かない動きを続けていますが、これは米国も日本も同じです。FRBの金融政策や日銀の総裁人事など不透明要因があることを考えればやむを得ないとも言えますが、自分はこういう時こそ相場格言の出番と考えています。今回は参考になりそうな格言を紐解いて見ながら、今後の株式市場について考えます。

閑散に売りなし

相場格言は数々ありますが、「閑散に売りなし」は自分が一番気に入っている格言です。意味としては、大相場の後、市場にエネルギーがなくなり凪のような状態になることがありますが、そうした時に突然市場が動意づき、収益チャンスを逃す愚を戒めるものです。“買い”ではなく“売りなし”と言うところに“侘び寂び”の雰囲気を感じて気に入っています。最近の株式市場は動きに乏しい、まさに凪の状態であって、突然上昇する可能性があると見ています。この格言に忠実に行動するのなら、現在の閑散と言える状況で少なくとも株式を売ってしまうことは、やってはならないことと言えます。

反応しなかった株式市場

それにつけても不思議に思うのは株式市場の反応です。2月1日のFRBは利上げ幅を前回の0.5%から0.25%に縮小しました。これは、FRBの金融政策が予定通りに進んでいることを示すものです。あれだけ待ち望んでいたインフレ沈静化や利上げ打ち止めが見えてきたのであれば、もっと歓迎しても良いと思います。それだけFRBに懐疑的な投資家が多いということでしょう。

雇用統計に対する投資家の反応もそうです。雇用者増は市場の予想を大きく上回り、失業率は53年ぶりの低水準となりました。株式市場にとっても文句のつけようのない好材料と思いますが、市場ではこの雇用統計を強すぎると見て新たな引き締めを警戒する声も多かったようです。しかし、さすがにこれは無理筋でしょう。インフレになっても、その分、賃金が上がれば大きな問題にはなりません。高度成長期の日本がそうでした。今回の米国の雇用者増も同じで、米国経済や株式市場にとって歓迎できるものと思います。

保ち合い放れにつけ

本文保ち合い（もちあい）は、強気の投資家・弱気の投資家が拮抗して相場が動かなくなってしまう状態を言い、「保ち合い放れにつけ」はそうした状況の中でバランスが壊れてどちらかが優勢になってしまう状況を言います。この場合、優勢になった側の勢いが強いので、逆らわずについていくことが大切、と言った趣旨の格言です。

（裏面へつづく）

チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!
西村証券公式
YouTube
西村証券

西村証券株式会社　NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者　近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会　主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。

ミッションを果たしたFRB

今回の場合、まだ終わったわけではありませんが、米景気は好調でインフレも沈静化に向かっていることから、FRBはそのミッションの終了に向けて着実に進んでいるものと思います。その時に株式市場は「持ち合い放れにつけ」ということで一気に上昇に転じると自分は見ていますが、その上昇に遅れないように準備しておくことが大切でしょう。

チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!
西村証券公式
YouTube
西村証券